

開けなかった入学式 僕らの手で

5年前コロナで縮小…志免西小6年生が資金集め

志免町の志免西小6年生が、入学時の2020年春に新型コロナウイルス禍のために大幅に縮小された入学式を再び実施しようと計画している。1年生から大きく成長した最終学年の児童たちは、式を自分たちの手で開こうと「模擬企業」を設立。来年2月の開催に向け、資金作りに励んでいる。

5年前の同小の入学式は、児童が1人ずつ教室に入って親と写真を撮るのみで終了。当時は各地で学校行事が縮小されたり、給食時に会話を慎む「黙食」が奨励されたり。児童も学校関係者も活動が大幅に制限された。

模擬企業の学習は、6年生担任の中野時広教諭が発案。どんな商品売るかや、市場調査、商品製作、販売まで自分たちでやる本格的な内容で、本年度は9月に始動した。今回は「木と布の製品」。スマートフォン



「志免町商工まつり」で自作のオリジナル商品を販売した志免西小の6年生たち

手作り商品販売「特別な体験」

のスタンドやペン立てなど木工品のほか、布製のティッシュカバー、廃材のかわなくずの香りを生かした入浴剤や消臭剤などを5クラスそれぞれに企画し、児童自らが製作した。

子どもたちは11月2日、「志免町商工まつり」で初めて販売に挑戦。商品は好評で、合計23万6千円の売り上げがあった。子どもたちは「やったことがない」特別な体験ができて楽しかった」と手応えを感じているが、中野教諭は「実績を分析し、商品の変更や、価格の見直しをする」。来年1月、学校近辺の商業施設で再度の販売会を計画しているという。

「6年目の入学式」は保護者を招待し、感謝を表す場として企画。飾り付けや式の内容の充実ぶりは最終的な収益次第。子どもたちは「必要な資金が集まるか心配だけど、もっと頑張る」と意欲を燃やしている。

(石田禎裕)